

セミナー参加者によるレポート

第3回Norway-Japan Academic Networkに参加して

北海道大学北極域研究センター准教授 大西 富士夫

2019年2月6日にノルウェー・オスロにあるノルウェー研究評議会(RCN)において、Norway-Japan Academic Networkが開催された。本セミナーは、JSPSとRCNの共催により日本とノルウェーとの間の学術振興を目的として2016年以降毎年ノルウェーにおいて開催されているとのことである。参加者は、ノルウェー在住の日本人研究者、JSPS同窓生、日本に留学経験のあるノルウェー人ら40名程度であった。本セミナーでは、ストックホルム研究連絡センター、RCNを中心とする両国の政府関係者から両国間の学術振興に活用できる種々のプログラムが紹介されると共に、日本での留学／在外研究経験のあるノルウェー人研究者とノルウェーでの留学／在外研究経験のある日本人研究者が後援者として招へいされた。

筆者は、科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究)の助成を得て、2018年9月から2019年3月までノルウェー防衛研究所において客員研究員としてオスロに滞在していたという経緯から、本セミナーに招へいされていた。

本セミナーは15時から2時間半で開催され、その後レセプションが催された。冒頭、ストックホルム研究連絡センターの津本忠治センター長が開催の挨拶を述べられ、同センターの活動が紹介された。次に、RCN国際部のJulie ChristiansenシニアアドバイザーからRCNの研究戦略についての説明があり、日本との研究協力の分野はまだ限定的であるが、今後両国間の研究協力が進展することについての期待が述べられた。次に登壇したノルウェー国際協力・高等教育推進庁(Diku)のArne Haugenシニアアドバイザーから、ノルウェーにおいて日本への留学を含む学生交流プログラムについての紹介が行われた。在ノルウェー日本国大使館の山森健成広報文化担当官からは、文部科学省において実施されている外国人留学生向けの奨学金が紹介された。

留学／在外研究経験者による講演では、まず筆者がノルウェー政府奨学金によるバレンツ研究所での研究滞在(2008-2009)、ノルウェー防衛研究所での研究滞在(2018-2019)について簡単に紹介し、現在の研究テーマである北極国際政治の概要を紹介した。次に登壇したバルゲン大学のIvar Rønnestad教授は、過去の京都大での研究活動の様子と近年の学生たちを含めた研究交流について紹介した。3人目の講演者であるスタヴァンゲル大学のAlexander Karl Rothkopf准教授は、東京大学での留学体験を紹介しつつ、専門の高能核物理について分かり易く説明した。

その後、JSPSノルウェー同窓会会長のAnders Øverby氏が自身の日本への留学経験と共に同会設立経緯並びに最近の活動の様子を紹介した。最後に講演者4名が登壇し、ノルウェーと日本の研究交流を促進していくための方策などについて、パネル討論が行われた。

今回、ノルウェー在住の日本人研究者の方も多く参加されており、懇親会ではネットワーキングの大変貴重な場となった。この機会をいただいたストックホルム研究連絡センター及びRCNにこの場を借りて感謝申し上げる。



講演する大西准教授



パネルディスカッションの様子